

# ステップだより

拠点校：日野市立南平小学校

巡回校：日野市立豊田小学校

令和4年 6月号

## 伝えるうえで大切なこと

6月になりました。爽やかな5月が終わり、蒸し暑い季節がやってきます。6月は梅雨の時期もあり、少しずつ疲れが溜まってくる時期でもあります。毎日「楽しい」「嬉しい」「悲しい」「疲れた」等、いろいろな気持ちをもっている子供たち。日々、様々な気持ちを抱えて頑張っている子供たちを、今後も、一人一人の気持ちに寄り添いながら、応援していきたいと思えます。

日々、子供たちと関わる中で大切にしていることの1つが「伝え方」です。褒めるときや叱るとき、励ますとき、伝え方によっては、こちらの思いがうまく伝わったり、伝わりきらなかったりすることがあります。うまく伝われば大人も子供も良いですが、うまく伝わらなかったときは、お互いにイライラして疲れてしまうこともあります。そこで今回は、大人が子供と関わる上で参考になる「伝え方」、「伝えるうえで大切なこと」について一部ご紹介したいと思います。

### ☆禁止は否定文ではなく肯定文で

「〇〇してはダメ」「△△してはいけません」という否定語で話すと、「ダメ」「いけない」に反応して、それだけで子供は拒否的な態度を示すことがあります。否定形では、「どう行動すべきか」が示されないため、行動を否定するだけでは問題行動は消えません。子供たちの中には、「かわりにどういう行動をとれば叱られないか」について、思いつけない子、考えてみたこともない子も実際にいます。従って、禁止を伝えるよりも望ましいのは、「～しよう」という肯定形の伝え方です。

【例】× 廊下は走らないで ⇒○ 廊下はゆっくり歩こうね

× 危ない、やめなさい ⇒○ △△すると危なくないよ 等

### ☆「ふわっと言葉」を増やそう

「ありがとう」「大丈夫だよ」など、心が温くなるような、トゲのない優しい言葉を、「ふわっと言葉」といいます。反対に、「ウザい」「まだできないの？」など、相手を傷つけ、元気を奪ってしまうトゲのある言葉を、「チクっと言葉」といいます。たくさんの「ふわっと言葉」を与えられている子は、相手にも「ふわっと言葉」をかえしてあげられる子になります。言葉はキャッチボールですから、「ふわっと言葉」を投げてあげれば、相手が「ふわっと言葉」で返してくれる可能性も高まります。その子が周囲の人々に温かく見守ってもらえるためにも、なるべく大人の「ふわっと言葉」のバリエーションを増やして、子供に温かい言葉のシャワーをかけてあげましょう。

#### みとめる「ふわっと言葉」

さすがだね 挑戦してみたんだね

できると思ってたよ

お母さん(お父さん)も嬉しいよ 等

#### 励ます「ふわっと言葉」

次があるよ 大丈夫だよ 待ってるよ

もう一度やってみよう 等

### 参考文献

『大人が変われば、子どもが変わる 発達障害の子どもたちから教わった35のチェンジスキル』

著者：阿部利彦

## 6月の学習予定

- ・気持ちを表す言葉
- ・わっかとり
- ・お手玉チャレンジ
- ・風船バレー
- ・話し合い活動（高学年はディベートなど）
- ・縄跳びチャレンジ（いろはにこんぺいとう）
- ・ま、いっか など

## <4、5月はこんなことをしました♪>

### 【始まりの会】

フレンドタイムが始まる前は始まりの会をします。1. あいさつ 2. 日付・天気の確認 3. 心の温度計 4. おはなしです。心の温度計では、その日の自分の体調や気持ちについて、8つの表情カードから1～2つを選んで発表します。「元気すっきり、いい感じですよ。」と答える日もあれば、「疲れた・ぐったりです。」と答える日もあります。大切なのは、自分の調子にあったものを選ぶということです。なぜそれを選んだのか、理由について考えることで自身について振り返ることができます。今後もステップ教室では、その子に応じた自己理解が進むように学習していきます。

8つの表情カード



### 【フレンドタイム】

フレンドタイムでは、気持ちの切り替えや、友達と協力する楽しさ、状況に合ったより適切な振る舞い方などについて友達と一緒に学習します。授業の最初に一人一人に合っためあて（頑張ること）を設定し、活動後に振り返り（自己評価）をします。

初めてのフレンドタイムでは、「自己紹介」をしました。始めは「緊張する・・・。」と不安を伝えていた子ども、練習をしたり他の子が発表しているのを見たりして、自分なりの方法で落ち着いて発表することができました。初めての場所や慣れない人の前で話すこと、あまり経験のないことに挑戦するのはとても勇気のいることです。ステップ教室での活動を通して、様々な経験を積むことができるよう意図的に機会を作っていきます。

### 【なんでもビンゴ】

ビンゴシートに、テーマにあったものを書き、友達や先生に自分の書いたものがあるかを聞き、同じものがあたら丸をつけ、ビンゴを目指していく活動です。例えば、動物がテーマであれば、ビンゴシートに犬や猫、ライオンというような動物の名前を書いていきます。友達に聞きに行く際は、「〇〇さん～はありますか?」「はい、あります。」「いいえ、ありません。」というように丁寧に伝える練習もしました。活動の最初はどのタイミングで友達に声を掛ければ良いのかタイミングを掴むことが難しい児童も見られましたが、活動が進むにつれて、友達が聞き合っているときには待たず、終わったタイミングで声を掛けたりする姿が見られるようになりました。

ビンゴシート

